

IMFの世界経済見通し

ポイント① 経済成長率見通しの下方修正

4月9日に発表されたIMF(国際通貨基金)の世界経済見通しによれば、2019年の世界経済成長率は3.3%と1月時点の見通しから下方修正されました。国・地域別には、中国以外の国・地域の成長率が全般的に下方修正されました。一方、2020年の世界経済成長率は3.6%とやや持ち直すと予想しています。

ポイント② 世界貿易の減速

世界経済成長率の下方修正の一つの背景として、世界貿易の鈍化が指摘されています。図2が示すように、世界貿易量の成長率は2015、16年の減速後、2017年に加速しました。しかし、2018年には再び減速し、今回の見通しでは2019年の見通しが下方修正され、さらなる減速が見込まれています。

米国などの保護主義的な通商・経済政策が、世界貿易減速の一因とされています。その点で、IMFは米中貿易・経済摩擦問題の解決を求めています。

ポイント③ 米中合意期待と政策対応の効果

米中貿易・経済交渉は、中国の産業保護政策などに関して両国の意見の隔たりがあり、当初米国が設定していた3月初までの期限が延長されています。しかし、貿易面での合意には近づいているようです。

景気減速の兆しに対して米国のFRB(米連邦準備制度理事会)の金融政策がハト派に傾き、中国では金融・財政両面からの景気下支え策が打たれています。米中合意の期待や、両国の経済政策の転換などから、各国の企業、家計の景況感が回復し、IMF見通しのように2020年に向けて貿易量や経済成長率が持ち直すかどうか注目されます。

図1：国・地域別経済成長率見通し

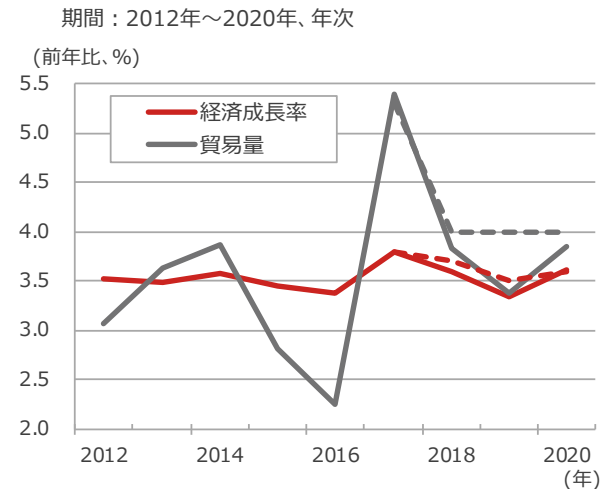
	前年比、%		
	2018	2019	2020
世界	3.6	3.3 (-0.2)	3.6 (0.0)
先進国	2.2	1.8 (-0.2)	1.7 (0.0)
米国	2.9	2.3 (-0.2)	1.9 (0.1)
ユーロ圏	1.8	1.3 (-0.3)	1.5 (-0.2)
日本	0.8	1.0 (-0.1)	0.5 (0.0)
新興・発展途上国	4.5	4.4 (-0.1)	4.8 (-0.1)
中国	6.6	6.3 (0.1)	6.1 (-0.1)
インド	7.1	7.3 (-0.2)	7.5 (-0.2)

(注) 2019年以降はIMFによる見通し

(注) ()内は1月時点見通しからの修正幅

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

図2：世界の経済成長率と貿易量



(注) 2019年以降はIMFによる見通し

(注) 点線は1月時点の推計及び見通し

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

4月17日 中国 1-3月期GDP
4月26日 米国 1-3月期GDP
4月30日 ユーロ圏 1-3月期GDP

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。